



坂東市

# 議会だより

Bando shigikai dayori (ホームページアドレス <http://www.city.bando.lg.jp>)

## 第29号

平成24年

5月17日発行

発行／坂東市議会  
編集／議会だより編集特別委員会  
〒306-1050  
茨城県坂東市山2730番地  
TEL 0297-135121(代)  
TEL 0280-188101(代)



▲市内中学校4校 合計535名

## ご入学 おめでとうございます



▲市内小学校13校 合計454名

### おもな内容

#### 第1回定例会内容

- |                |     |
|----------------|-----|
| 正副議長就任あいさつ     | ②   |
| 会期日程・議案説明      | ③   |
| 定例会審議結果        | ④   |
| 一般会計・各特別会計予算   | ⑤   |
| 予算特別委員会        | ⑥～⑦ |
| 一般質問           | ⑧～⑭ |
| 委員会審査報告・陳情     | ⑮   |
| 議会からのお知らせ・編集後記 | ⑯   |

## 議長に木村敏文氏、副議長に石山 実氏を選出

平成24年第1回定例会において、正・副議長の辞職に伴い選挙が行われ、議長に木村敏文氏、副議長に石山実氏を選出しました。

### 正副議長就任あいさつ



議長  
木村 敏文

このたびの平成24年第1回定例会におきまして、議員各位のご支持をいただき、坂東市議会議長に就任いたしました。私にとりまして、誠に光栄であり、皆様のご厚情に心から感謝申し上げます。微力ながら市政の発展と議会の円滑な運営に、全力を傾注する覚悟でございます。

地方分権時代の今日、地方議会の果たす役割はますます大きくなっております。同時に地方自治における市民の皆様の参画は重要となっております。

市民の目線に立ち、市民の声に真摯に耳を傾け、活力のあるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、より一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



副議長  
石山 実

このたび、議員の皆様のご推挙をいただきまして、坂東市議会副議長に選任されましたことは身に余る光栄であり心から感謝申し上げます。

今、地方を取り巻く環境が大きく変わりつつある中、市の財政は大変厳しい状況が続いております。

このような中、各議員のご支援をいただきながら、議長の補佐役に努め、円満な議会運営を図るとともに、主役は市民をモットーに市民の皆様が安全で、安心して暮らせるまちづくりを推進してまいります。

なにとぞ、市民の皆様の一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 会 期 日 程

日次	月 日	曜日	区分	議事日程
1	3月5日	月	本会議	開会、会期の決定、議案上程、説明、質疑、委員会付託、採決
2	3月6日	火	委員会	総務常任委員会 産業建設常任委員会
3	3月7日	水	休 会	議事整理
4	3月8日	木	委員会	予算特別委員会
5	3月9日	金	委員会	予算特別委員会
6	3月10日	土	休 会	
7	3月11日	日	休 会	
8	3月12日	月	休 会	議事整理
9	3月13日	火	休 会	議事整理
10	3月14日	水	本会議	一般質問
11	3月15日	木	休 会	議事整理
12	3月16日	金	本会議	委員長報告、質疑、討論、議案上程、説明、採決、同意、選挙、閉会

## 平成24年 坂東市議会第1回定例会

3月5日から3月16日まで

第1回定例会では、初日に一般会計予算をはじめ各特別会計予算や専決処分  
の報告・承認、条例の制定・改正、補正予算などの32議案が提出されました。  
最終日には、追加議案1件及び人事案件2件が提案され、それぞれ原案のとお  
り可決しました。また、正・副議長の辞職に伴い、正・副議長選挙が行われま  
した。

## 主 な 議 案 の 説 明

第1回定例会に提出さ

れた主な議案について、内容を  
要約してお知らせします。

### ■議案第2号

「地域の自主性及び自立性を  
高めるための改革の推進を  
図るための関係法律の整備に  
関する法律」に伴う墓地、埋  
葬等に関する法律の一部改正  
により平成24年4月1日から、  
県から権限移譲事務が市の事  
務に移譲するために新たに条  
例を制定するものです。

### ■議案第3号

東日本大震災からの復興を  
図ることを目的に、地方公共  
団体が実施する費用の財源を  
確保するため、臨時の措置と  
して平成26年度から10年間、  
個人住民税の均等割りの税率  
を引き上げて、市500円、  
県500円の合計千円を上乗  
せするものです。また、平成  
25年1月1日以降の退職所得  
に係る個人住民税の10%税額  
控除が廃止されます。  
次に、県たばこ税の一部が  
市たばこ税に移譲され、平成  
25年4月から千本につき64  
円増の5262円に改正す

るものです。

### ■議案第6号

平成24年度から26年度まで  
の3年間、第1号被保険者介  
護保険基準額を介護給付費の  
増額等により月額4160円  
とし、これに基づき保険料率  
を改正するものです。

### ■議案第14号

現在、整備中の圏央道イン  
ターチェンジ周辺に計画中の  
「平谷・富田地区」の工業団  
地開発に伴い、地域の秩序あ  
る整備を図るため、公有地の  
拡大の推進に関する法律第10  
条第1項の規定により「坂東  
市土地開発公社」を設立する  
ものです。

### ■議案第15号

「坂東市土地開発公社」にお  
ける基本的な事項を定めるも  
ののです。

### ■議案第32号

昨年の9月の人事院勧告に  
基づき給与制度を改正するも  
ので、平成18年度に実施した  
給与構造改革において、急激  
な給与の減額を緩和した経過  
措置額を段階的に廃止するも  
ののです。



## 第1回定例会で下記のこと決定

議案番号	議 案 名	結 果
報告第1号	専決処分の報告について（交通事故の和解について）	報 告
議案第1号	専決処分の承認を求めることについて（坂東市税条例の一部を改正する条例）	承 認
議案第2号	坂東市墓地、埋葬等に関する法律施行条例	可 決
議案第3号	坂東市税条例の一部を改正する条例	可 決
議案第4号	坂東市立図書館の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第5号	坂東市立コミュニティセンターの設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第6号	坂東市介護保険条例の一部を改正する条例	可 決
議案第7号	指定管理者の指定について	可 決
議案第8号	指定管理者の指定について	可 決
議案第9号	市道路線の認定について	可 決
議案第10号	市道路線の認定について	可 決
議案第11号	市道路線の廃止について	可 決
議案第12号	市道路線の廃止について	可 決
議案第13号	市道路線の変更について	可 決
議案第14号	坂東市土地開発公社の設立について	可 決
議案第15号	坂東市土地開発公社定款について	可 決
議案第16号	平成23年度一般会計補正予算（第9号）	可 決
議案第17号	平成23年度坂東市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）	可 決
議案第18号	平成23年度坂東市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	可 決
議案第19号	平成23年度坂東市介護保険特別会計補正予算（第3号）	可 決
議案第20号	平成23年度坂東市介護事業特別会計補正予算（第2号）	可 決
議案第21号	平成23年度坂東市公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）	可 決
議案第22号	平成23年度坂東市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	可 決
議案第23号	平成23年度坂東市水道事業会計補正予算（第2号）	可 決
議案第24号	平成24年度坂東市一般会計予算	可 決
議案第25号	平成24年度坂東市国民健康保険特別会計予算	可 決
議案第26号	平成24年度坂東市後期高齢者医療特別会計予算	可 決
議案第27号	平成24年度坂東市介護保険特別会計予算	可 決
議案第28号	平成24年度坂東市介護事業特別会計予算	可 決
議案第29号	平成24年度坂東市公共下水道事業特別会計予算	可 決
議案第30号	平成24年度坂東市農業集落排水事業特別会計予算	可 決
議案第31号	平成24年度坂東市水道事業会計予算	可 決
議案第32号	坂東市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例	可 決
同意第1号	教育委員会委員の任命について	同 意
諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	同 意
農業委員会委員の推薦について		眞 中 敏 晴 染 谷 勇 服 部 実 野 口 進
議長選挙について		木 村 敏 文
副議長選挙について		石 山 実

## 平成24年度 一般会計予算・各特別会計予算を可決！

第1回定例会において可決した平成24年度一般会計及び各特別会計の予算をお知らせします。

## 一 般 会 計

歳入		歳出	
市税	72億4675万9千円	民生費	64億4553万3千円
地方交付税	45億7000万円	土木費	32億8177万7千円
国庫支出金	24億7455万8千円	総務費	27億1981万1千円
市債	22億7460万円	教育費	22億0319万1千円
県支出金	11億1810万8千円	公債費	19億2464万4千円
地方消費税交付金	5億3600万円	衛生費	14億2659万5千円
繰入金	4億0118万7千円	農林水産業費	9億2102万9千円
諸収入	3億7232万2千円	消防費	8億0919万6千円
地方譲与税	3億6800万円	議会費	2億3807万7千円
分担金及び負担金	2億9270万2千円	商工費	2億1006万5千円
繰越金	2億円	予備費	3000万円
使用料及び手数料	1億2016万3千円	労働費	8万円
自動車取得税交付金	9000万円	諸支出金	2千円
ゴルフ場利用税交付金	7500万円		
地方特例交付金	2000万円		
その他	5060万1千円		
合 計	202億1000万円	合 計	202億1000万円

## 特 別 会 計

## 後期高齢者医療

3億5340万円  
(対前年度比2.5% 増)

## 国民健康保険

69億9100万円  
(対前年度比1.5% 増)

## 介護事業

4700万円  
(対前年度比1.7% 増)

## 介護保険

30億7680万円  
(対前年度比11.9% 増)

## 農業集落排水事業

3億2400万円  
(対前年度比0.6% 増)

## 公共下水道事業

13億2600万円  
(対前年度比6.9% 増)

## 水道事業

収益的支出 12億0835万8千円 (対前年度比 2.4% 増)  
資本的支出 7億2777万3千円 (対前年度比 42.9% 減)

## 予算特別委員会

## 総額342億6433万円の予算案を特別委員会にて審査!

3月8日・9日に行われました予算特別委員会の質疑内容を要約してお知らせします。

## 歳入

- 問** 法人市民税の法人税割が前年度から増額になつていますが、平成23年度の補正を見ると、この額でいいのかと思います。いかがでしょうか。
- 答** 平成24年度の当初予算ベースでも23年度補正を含めた形で組んでいます。特に下半期に至つての法人税割の伸びが大きかったことを踏まえて計上しています。
- 問** 納税義務者が年々減つていくのはどう見ればいいのか。
- 答** 就労人口の減が要因であると見ています。
- 問** コンビニ納税はどのくらいの割合を見込んでいますか。
- 答** コンビニ納税の部分だけの見込みはしていませんが、平成22年度では3億9200万円の収納がありました。23年度2月までに4億7900万円、件数では22年度は2万4728件、23年度3万1552件と増えています。24年度はさらに増える見込みをしています。
- 問** 滞納繰越分の収納率はどう見えていますか。
- 答** 基本的には20%、法人では10%を見込んでいます。

**問** 県の租税債権機構に依頼する件数は毎年決まつているのですか。

**答** 坂東市の場合30件を移管しています。

**問** 滞納整理はどういう体制でやっているのか伺います。

**答** 徴収嘱託員2名と全庁体制ということで、主幹以上の職員1人あたり3件程度を割り当て、滞納整理に取り組んでいます。

**問** 小学校費のバス負担金が増えています。その理由を伺います。

**答** 昨年度までは飯島幼稚園のバスは学校の運営委員会運営していましたが、24年度からは市の委託バスを運行するため増額になります。

**問** 福祉センター使用料が大幅減になっていますが、その理由を伺います。

**答** 猿島地域の福祉センター「ほほえみ」を24年度から指定管理者に移行することに伴い、使用料についても移行されますので減額となります。

## 歳出

- 問** B級グルメイベントの会場はどこで、出品する範囲はまた、市外へのPRはどのようにするのか伺います。
- 答** 八坂公園の陸上競技場を会場に、市内の方と全国的に有名な方に出店いただければと考えています。また、PRについては組織を立ち上げてインターネット等で全国に発信していきたいと考えます。
- 問** 「納めてなっ得」カードの費用対効果としてはどう考えていますか。
- 答** 24年度分の税目ごとに5%増を見込んでいます。
- 問** 徴収嘱託員報酬が減額ですが、実績が下がって減額になっているのか伺います。
- 答** ベテラン徴収員が3月で退職しますので、新たな徴収員については、徴収実績による報酬額を減額して計上しています。
- 問** 桜並木整備事業で各種「さくら」について四季を通してのイベントを開催する考えはあるのか伺います。
- 答** 桜を生かした街づくりを進めていますので、いろんな「さくら」を想定して検討していきたいと考えます。
- 問** 生活保護の扶助費が増えている理由を伺います。
- 答** 主な要因については、外来が当初より月50人増えており、医療費扶助が約3000万円増えています。
- 問** 大腸がん検診、肝炎検診の無料枠の拡大をするように聞いていますが、内容を伺います。
- 答** 大腸がん検診では1000人、肝炎ウイルス検査では4000人の無料枠の拡大を予定しています。
- 問** 農産物ブランド拡充推進に要する経費がありますが、具体的にどういうブランドを拡充していくのか、また、今までのブランドについてはどのようにしていくのか伺います。
- 答** 坂東市の特性、資源等を十分生かしながら、坂東市の農産物のレタス、ねぎ、白菜等を中心に、東京都内での直売会等継続的に実施しブランド化を図りたいと考えます。
- 問** 商工振興に要する経費の中で、防犯カメラの設置場所と設置台数について伺います。
- 答** 23年度に建設しました中心市街地活性化センターに24時間対応型のものを1台設置します。



**問** 企業立地推進に要する経費について内容を伺います。  
**答** 工場誘致条例の一部を改正し、リクシルが太陽光発電の設備を設置したことに伴い、奨励金を交付するものです。  
**問** 大塚酒造跡地の今後の事業はどのようなものか伺います。  
**答** 24年度については用地測量を行い、また、一年間かけてまして有識者等の意見を伺い、検討していきます。  
**問** (仮称)緑のスポーツ広場整備工事は24年度完了ということですか。  
**答** 現在第1期工事を進めている状況で、24年度は駐車場進入路、夜間照明等の整備を予定していますが、若干未定の部分もあります。  
**問** 道路改良の際に路線が建物にかからないよう、道路線形を変える等柔軟な対応は出来ないでしょうか。  
**答** 道路の拡幅改良については、出来るだけ建物からからないような線形を入れ、地元説明会に臨んでいます。  
**問** 消防団員の災害補償について、どのような補償内容か伺います。  
**答** 遺族補償、療養補償、休業補償、疾病補償年金、傷害

補償、介護補償、葬祭補償があります。算出基礎については、補償基礎額があり、災害時の階級、勤務年数によって額が定められ、最低額で8800円、最高額で1万4200円で、その時のケースにより倍率が掛けられて支払われます。  
**問** 幼保一元化施設と幼児総合施設の中身の違いについて伺います。  
**答** 以前の計画では市内に1か所、今回は坂東市内に5か所という考え方を持っています。ただし、一つについては、かなり大きく民間と重なり合うところがありますので、公的なものは4か所、岩井地域3か所、猿島地域1か所という考え方を持っています。  
**問** 幼児教育の一元化については同じかと思いますが、以前は幼稚園設備と保育園設備が一つの施設の中に集まったというものですが、今回の計画は、すべて一緒に包含されているというところが大きな違いだと思います。  
**問** 中学生の海外研修について伺います。  
**答** 一昨年までニュージーランドを研修地として実施してきましたが、昨年の2月に二

ユージーランドにおいて地震が発生し、23年度は中止にした経緯があります。平成24年度は、それらを踏まえて研修地の検討をしていきたいと考えています。  
**問** 中学校の部活動への補助について伺います。  
**答** 平成24年度に全国中学校ハンドボール大会が坂東市等を会場に実施されますので、岩井中、南中学校のハンドボール部の強化費用です。  
**問** 市民健康体操普及促進の内容を伺います。  
**答** 坂東市オリジナルの体操を制作して、24年度には高齢者を対象に月4回、3か月間実施し、その効果の検証をするものです。  
**問** 伝統芸能育成に要する経費が減額になっている理由を伺います。  
**答** 能楽教室として昨年購入した備品が継続して使えるということで減額になっています。

## 討論

第1回定例会最終日に平成24年度一般会計予算及び各特別会計予算に対し、2人の議員による討論がありましたので、その内容を要約してお知らせします。

### 反対討論 藤野 稔 議員

### 賛成討論 滝本 輝義 議員

野田内閣は「社会保障と税の一体改革」で社会保障を切り崩し、消費税の大増税を押し付け、T P P参加で農業をはじめとする地域経済と地域社会を崩壊させようとしております。平成24年度政府予算案は中止したはずのハッ場ダム建設を再開し、社会保障を切り捨て、「子ども手当」は中止、原発推進予算はそのままなどマニフェスト総崩れの予算です。これでは国民、市民の暮らしが良くなるはずはありません。今ほど地方自治体が住民の暮らしと福祉を守る「防波堤の役割を果たす」ことが求められているときはありません。私は市民の声に耳を傾け市民の声を市政に反映し、行政をチェックする議員の役割を果たすために力を尽くすことを表明して、平成24年度一般会計予算をはじめ、国民健康保険特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、水道事業会計予算に対する反対討論とします。

平成24年度坂東市一般会計予算は対前年度比1億円0.5%増であり、主な理由は生活道路の整備、スポーツ施設の整備などによるものです。  
 歳入については、個人・法人市民税が増額しましたが、地方交付税、地方特別交付税の減額などにより厳しい状況であり、行政改革をより推進し、自主財源の確保に取り組んでおります。

歳出では、市民団体、事業者で組織した「坂東市防災支援連絡会議」と連携した防災支援体制の充実をはじめ、生活道路の整備、総合的な子育て支援策、中心市街地への集客施設の整備、企業誘致の推進、小・中学校体育館の耐震化、「市民健康体操」の普及促進など、厳しい財政状況の中で市民の要望にこたえるため重要施策に重点配分がなされた予算であります。適切な執行がなされることを要望し、24年度一般会計及び全ての特別会計並びに水道会計予算に賛成するものであります。

## 一般質問

平成24年第1回定例会の一般質問は、3月14日に行われ、7人の議員が登壇しました。質問と答弁の内容を要約してお知らせいたします。

いしやま  
みのも  
石山 実議員

## 学校教育振興について

**問** 各小学校にビニールハウスを設置しましたが、活用内容及び成果について、また、特色ある学校づくりの成果と方針について伺います。

**答** 次に、全国学力テストの結果と、坂東市の県内での順位、3年間の学力の推移について伺います。

放射能及びインフルエンザ対策としてマスクを配布しましたが、着用率が低下していました。着用の必要性について、子どもたちと保護者に十分な説明がされていたのか伺います。

中学校での武道学習が24年

度からは必修化になりますが、指導者の確保や不慮の事故への対処方法について伺います。

**答** 農業を基幹とする本市の後継者難に、担い手育成の一助になるようにと、各小学校にビニールハウスが設置され、野菜や花の栽培、観察等を通して子供たちが有意義な活用をすることができました。

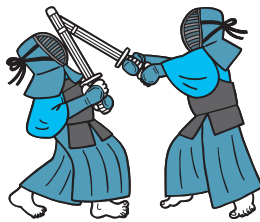
特色ある学校づくりについては、今年度は3校に補助金を頂き、特に杏掛小学校では漢字力向上に取り組み、漢字検定試験合格率が86%という合格率でした。

全国学力・学習状況調査については、点数ではなく問題ごとに正答率が示されます。本市は県や国と比べ低い位置にありますが、21年度、22年度の比較で向上が見られ、23年度は東日本大震災の影響で中止となったので別のテスト結果からの推定では、県や国の平均正答率に近くなっています。

マスク着用については、各学校に趣旨等を文書で知らせ、保護者の方々への周知をお願いしましたが、再度、どの学校にも指導しました。

武道学習については、24年

度から中学校における新学習指導要領の完全実施により、国固有の伝統と文化に一層触れることが取り入れられ、武道が必修化になりました。市内各中学校では既に武道の指導を行っています。指導者は有段者、経験者の保健体育科教員が中心に当たっており、大きなけがの報告もなく実施しています。



## 街づくり活性化事業の取り組みについて

**問** 本市では、活性化のための事業が数多く展開されていますが、今後の事業内容、目的等について伺います。

**答** また、これまでの活性化事業が市民へ十分に周知されておらず、市民の理解を得られていない部分があると思われるのですが、それについて伺います。

**問** さくらまつりでは、市民参加型の市民による祭りの創出を心がけました。

将棋を活用した事業として、将棋盤モニュメントの設置や新春将棋大会を実施しました。ホコテンについては、商店街や商工会が中心となり、市民主体の組織体制を進め、さらなる内容の充実やPRを図り、継続的に事業を進めていく考えです。

イルミネーション事業については、機材の寄贈、新聞各紙やNHKの生放送のPR効果により、昨年度と比較して数倍の来場者を得ることができ、商店街活性化という面が

らも効果があったものと推察しています。

また、市内事業所の相互交流と取引の拡大を目的に開催した月見の茶会については、今後の事業所のさらなる充実につなげられるよう、引き続き実施していきたいと考えます。

活性化事業については、広報紙やウェブサイト、情報メール等を積極的に活用しながら、PRと同時に趣旨へのご理解をいただくよう努めていきたいと思っています。

**問** 広報やPRについて研究し、情報発信していくためのプロジェクトの設置を提案したいと思いますが、それについて伺います。

**答** PRはとても大切なことです。早速、提案いただいた「PRプロジェクト」を立ち上げたいと考えます。



かざみ  
まさかず  
正一 議員

## 住民基本台帳カード 「住基カード」の普及 と多目的利用の推進 について

**問** 「住基カード」は、住所地の市区町村から希望者に交付されるICカードで、主に住民票の写しの広域交付などに利用されていますが、条例で定めることにより、多目的利用を図ることができます。

現在、坂東市においては、この「住基カード」の多目的利用についての条例は制定されていないと思いますが、制定に向けてその考えがあるか伺います。

近隣では、古河市が条例を制定し、住民票の写し、印鑑登録証明書、各種税の証明書等、合計7種類の証明書の交付と市内図書館の利用を可能にし、また、証明書等のコンビニ交付も導入しています。総務省は今後、システム改良によりコンビニ交付の証明書の書類を増やし、利便性を高め、導入自治体を拡大すると

しています。

当市においても、先進的な取り組みとして「住基カード」の多目的利用とコンビニ交付について、導入していただくよう提案します。

**答** 現在、多目的利用についての条例を制定していませんが、今後、近隣市町村等の動向を踏まえ、検討したいと思っています。

コンビニ交付の実施については、市民カードを利用した自動交付機での対応で利便性の向上を図っていますので、現状では必要性が低いものと考えます。

**問** 市民カードでは、住民票の写しと印鑑登録証明書の発行だけで、自動交付機の設置場所もそれぞれの庁舎です。

証明書類等が身近なコンビニ等で交付されれば、市民の利便性は向上し、窓口業務の軽減化、コストの削減、さらには新庁舎の規模やその業務のあり方につながると考えます。多目的カードの利用者を積極的に増やしていくような明確な計画を持つていくことが重要だと思いますがそれについて伺います。

**答** 全国では、43自治体がコンビニ交付を実施しています

が、昨年から実施した山梨県の6団体の交付実績は、2%から5%という状況です。

今後、国では年金や税、社会保障の関係も統一したいとのことですので、諸般の状況を見極めながら、サービスの向上に努めたいと思います。

**問** 市民カードを多目的利用の「住基カード」に切り替えていく方向で検討していただき、今後のためにも発行率のアップを図っていただきたいと考えます。

**答** ご指摘の点を踏まえて、どのようなことができるのか十分検討したいと思っています。

## 行政の広聴及び 広報の推進について

**問** 公式ホームページや広報坂東などは、市の各種情報を掲載・発信することが主であり、市内外の速報的情報の収集や、周知広告には弱い面があります。

インターネットによる手法の一つとして「フェイスブック」という世界最大の会員制交流サイトがあり、県庁をはじめ水戸市や桜川市、市内では商工会青年部が開設しています。

これまでどおり公式ホームページや広報坂東など紙媒体の充実を図ることはもちろんですが、情報化時代の今、メディアミックスの手段として市の各種情報を広く発信し、同時にリアルタイムで情報と反応も収集できる「フェイスブック」の導入について伺います。

**答** 「フェイスブック」については、近年、急激に利用者が伸び、自治体でも利用を開始しています。これらの動向を踏まえ、本市の職員も積極的な研修活動を行っています。今後は、この「フェイスブック」の長所・短所等を勘案するとともに、より効果的な情報の発信及び収集体制を築きたいと考えています。

**問** 市の各種事業等の情報を発信しながら、なおかつリアルタイムでその反応を検証していくということが重要なことではないかと考えますが、

それについて伺います。

**答** 情報システムの技術は日々進歩していますので、今後の状況などを十分に注視し、最も有効的な方法により、全庁的な情報伝達及び収集体制を構築したいと思っています。

**問** 市長からPRプロジェクトチームを立ち上げるという話がありました。その中に、この「フェイスブック」のチームを入れていただければと思いますがいかがでしょうか。

**答** PRプロジェクトの中で、こういう部門も含めて検討したいと思っています。

### ◆その他の質問

●坂東市内学校・幼保等の防災態勢を強化するための「地域との連携」について

※「フェイスブック(facebook)」とは、コンピュータとインターネットを利用して実名で人と人とを結びつける交流サービスで、世界最大のユーザー数を誇り、2012年1月現在、8億人以上のユーザーがいるとされています。

染谷 孝 議員  
そめや たかし

## 市役所の窓口サービスについて

**問** 土曜日と日曜日の窓口業務では内容に違いがあるようですが、具体的なサービス内容を伺います。

次に、自動交付機が設置され、申請書の記載や印鑑の必要もなく、待たずに発行されるので大変便利になりましたが、さらなる利便性の向上と経費節減を図るため、戸籍関係や税の証明書関係にも利用できないか伺います。

当市には「市民カード」をはじめ、いろいろなカードがありますが、これらのカードを統一化できないか伺います。また、「納めてなつ得カード」は、なぜ戸籍関係の支払いに使えないのか、納得いく説明をお願いします。

**答** 市民サービスの一環として、日曜日は両庁舎で証明書発行業務を行っているもので、土曜日は日直業務という状況です。

自動交付機では、住民票と印鑑証明を交付していますが、

戸籍の証明の交付には、自動交付機のシステム変更が必要になります。

カードの統一は、「住基カード」の多目的利用を中心に、他市の動向を踏まえ検討したいと考えます。

現在、戸籍関係の証明手数料に「納めてなつ得カード」のポイントは利用できませんが、順次見直しを行い、サービスの拡大を図ることになっています。

**問** 土曜日の窓口業務も日曜日と同様に行っていたのだかと思えます。

カードの統一については、今後の新庁舎建設の際には窓口を含め、一元管理という形で利便性の向上を図っていたのだかと思えます。そのための初期投資は必要であると考えます。

**答** 土曜日の業務は、主として郵便物の收受、戸籍関係の届け出の受理等を日直が行っています。日曜日だけは証明書発行業務を行い、市民サービスの拡大を図っています。

窓口の一元化については、新庁舎建設の中で検討していきます。

## 自動交付機



## 教育行政について

**問** 登下校の安全対策については、どのように取り組んでいるのか、また、学校現場からたくさんの改善要望が出されていると聞きますが、どのように対応しているのか伺います。

次に、当市でも少子化が進み、生徒数が激減しています。複式、少人数学級等の現状と、学区制度等検討委員会の答申内容について伺います。また、適正な教育環境を構築するため、早期の小学校の学区再編を求めますが、それについて伺います。

**答** 登校時には交通安全母の会、教職員等が立哨指導し、下校時には、小学校では集団下校の徹底を図り、中学校では数名での下校を指導しているほか、保護者、地域ボラン

ティア、各種団体等でパトロールも実施しています。

改善要望等については、学校への要望は学校で、交通安全課、道路課等の各課への要望は各課で対応しています。

複式学級は、内野山小学校に設置し、児童数が少ない小規模校は、飯島、弓馬田小学校という状況です。

学区制度等検討委員会の答申では、児童数が150人に満たない内野山、飯島、弓馬田小学校の3校は、統合が好ましいとのことでした。

学区再編については、関係者等との協議を重ねて、慎重に進めたいと考えます。

**問** 以前は、道路課や教育委員会、PTA、学校等が共同で、学校周辺及び通学路の点検調査を実施していましたが、現在も実施しているのか伺います。

また、学区制度等検討委員会の答申を受けて、教育委員会はどのような検討をしているのか伺います。

**答** 通学路については、PTAと先生方にお任せしているのが現状です。今後は全地区の通学路の状況を学校とともに

に把握し、県や関係機関とも連携していきたいと考えます。

学区制度等検討委員会の答申を受け、教育委員会定例会の中で検討してきましたが、その答申を尊重しながら、児童・生徒数の推移をみています。

通学区の見直しは、財政上の課題も大きく、また、保護者や地域住民の十分な理解も必要ですので、今後、市全体で検討していく必要性があると考えています。

**問** 学区再編については、優秀な子どもを育てるため、行政も勇気を持って決断する時期に来ていると思います。市長の考えを伺います。

**答** 坂東市の今後の教育というものを考えると、真剣に検討していかなければならないと考えます。

## 関連質問

羽富 晶弘 議員  
はとみ まさひろ

● 窓口申請書の簡素化及び保管・処分方法について  
● 窓口利用者の番号制の導入について



ふじの  
藤野 稔 議員

## 中学校の武道 必修化について

**問** 24年4月から中学校の体育の授業で柔道などの武道が必修になります。各中学校の武道の選択状況について伺います。

また、柔道による事故が後を絶たず、全国では、一昨年度までの28年間で中学校・高校で114人が亡くなっています。

坂東市における体育教員の武道経験者と資格について伺います。

柔道は、競技人口あたりの死亡事故が群を抜いています。教育委員会としてはどのような安全対策を考えているのか伺います。

**答** 24年度から必修化となり、1・2年生は柔道、剣道、相撲の中から、3年生は球技と柔道からそれぞれ一つを選択して履修することになります。武道経験者や有段者については、保健体育教員11名のうち、柔道有段者6名、剣道有段者3名です。

安全対策については、現在まで大きなけがもなく実施していますが、今後も指導者の指導力向上に向けての研修会等を実施して安全指導に取り組みます。

**問** 実際に授業するのは1年間で12時間から15時間以内で部活でいうと一、二週間分になります。授業の中では投げ技までは行けないのではないかと伺われていますが、具体的な中身まで検討されているのか伺います。

**答** 時間も数多くありませんので、基本的なものをみんなですべて学べるように指導内容にしています。

**問** 今までに大きな事故が無いということですが、柔道が持っている危険性が指摘されていますので、十分に注意して行うことが求められています。教育長の考えを伺います。

**答** いつ何時不慮の事故が起こるかもしれません。それに備えて指導力の向上を図るため、数多くの研修会等を実施し、安全で安心、そして武道

学習が十分できるよう考えていきたいと思っています。



坂東市猿島武道館

## 地元の自営業者・ 中小企業への支援・ 振興対策について

**問** 市では、新規工業団地の計画を進め、地域経済の浮揚雇用の創出、税収増などにつながる企業誘致を進めるとしています。大企業は非正規雇用のパート、アルバイト、派遣社員が大半を占めており、雇用創出力が高いのは、地元の自営業者や中小企業です。

地元の自営業者、中小企業の現状をどのように認識しているのか、また、支援・振興

策の現状とその効果について伺います。

**答** 昨年の東日本大震災及び昨今の円高による影響により、市内中小企業においても厳しい経営環境であると認識しています。

支援・振興策については、市内金融機関に預託を行い、自治金融の金利を低利に抑え、また、利子及び保証料の補給をすることにより負担軽減を図り、振興金融、自治金融の融資あつせんを行っている状況です。

商工会や関係機関と連携し、不況に強い事業づくりの支援を進めていきたいと考えます。

**問** 地元の企業が元気にならなければ地域経済も活性化していきません。元気になるような支援策、振興策を積極的に打たなければならぬと思います。それについて伺います。

**答** 地元中小企業関係については、大切な企業です。育成していかなくてはなりません。日野自動車関連の下請け的な部品製造等があればどん

どんPRしたいと考えています。行政だけでなく商工会の力を借りながら、地元中小企業の育成・支援に取り組んでいきたいと思っています。

**問** 全国的にも、中小企業振興条例を制定する自治体が増えています。市として優秀な事例について、調査・検討されたのか伺います。

**答** 事例としては、帯広市の産学官連携、観光の拠点づくりなどの事例を参考にしながら、中小企業支援、商業関係活性化という観点から、大塚酒造跡地を拠点とした整備などを検討している状況です。



中心市街地に位置する大塚酒造跡地



すぎむらひろみ  
杉村裕己 議員

## しど谷津公園内の整備について

**問** しど谷津公園については、再三にわたり質問しています。が、いまだに完成していません。計画から20年が経過していますが、田んぼとしての利用もなく、草だらけです。

以前は、釣り堀が計画されていましたが、住民から生息するホタル保護を要望され、白紙になりました。その後、具体的な計画はなくなり、公園内の管理が心配されます。

この公園は、いわゆる「ごく又」の地形で、田んぼ側との分岐点に道路がありますが、この道路を外周の遊歩道と同じ高さにして田んぼ側に水を張り、タナゴの養殖場として整備し、市の活性化を図る考案があるか伺います。

**答** しど谷津公園の二股にあって、東側の谷津を、横断している園路を高くして水を張り、タナゴの養殖場にしようというのですが、しど谷津公園の整備にいては、22年6月に

当時の地元区長及び住民との話し合いの中で、ホタルが生息しているの、自然形態での保護について強い要望がありました。このことから、現在のところ養殖場の予定はありません。

今後のしど谷津公園の整備については、地元との調整が可能であれば整備を検討したいと考えます。

**問** タナゴは、観賞魚として水槽で飼われ、心に安らぎを与えてくれる魚です。このしど谷津公園内の池にも生息しており、県外からも釣り客が訪れています。

自然環境を壊さず維持管理ができて、また、市の活性化策としてもタナゴの養殖場を計画していただきたいと思うが、再度伺います。

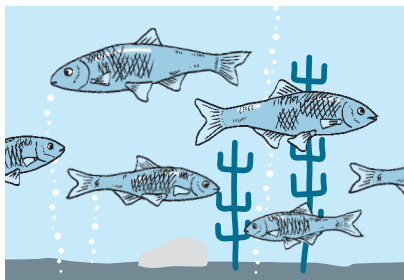
**答** しど谷津公園については、22年6月に釣り堀と管理用道路の整備計画について説明会を行いました。が、今のままの自然形態を保護してほしいという意見が数多くありました。翌7月には、当時の地元区長と再度協議を行いました。が、やはり、今のままの自然形態の保護という強い要望があり、

現在に至っています。

このため、タナゴの養殖場については、自然形態の保護という観点からも、地元の理解が得られないと難しいと考えます。

**(要望)** タナゴの場合、自然の沼に生息すると同様に、現在の自然形態を利用できると思います。

圏央道の開通も見込まれる中、当市発展のための活性化策としても要望します。



## 農道整備について

**問** 沓掛の西村赤木地区は、農道が整備されていません。この地区の農道は昔のままで、道路幅は6尺、雨が降ると水がたまり、また、冬は霜解けで道路がぬかるみ、車の通行ができないため農家にはとても不便な道路です。

道路は、雨が降っても安心して通行ができるように整備するのが、市としての責務でもあります。この西村赤木地区の農道を整備する考えがあるか伺います。

**答** 赤木地区の農道には数本の市道が含まれています。この市道は砂利道ですが、舗装整備する場合、民家もほとんどなく、費用対効果を考えますと碎石の補充等での対応となります。

道路の整備については、幹線から幹線へ抜ける道路、交通危険箇所、人家密集地等を重点的に進めていますのでご理解をいただきたいと思います。

**問** この地区の農道では、西側の幹線道路から県道猿島常

総線へ抜ける2本を整備していただきたいと思っています。

特に、北側道路の県道への取り付け部分は、段差があり、崩れていたりして非常に危険な場所です。是非、補修していただきたいと思っています。それについて伺います。

**答** 整備要望の農道については、それぞれ現地確認していますが、碎石等に対応させていただきます。また、道路幅が約1.8mと狭いので、碎石が飛散して畑に入らないよう十分注意して進めたいと思います。

危険箇所については、現地を確認し、状況に応じて対策を検討したいと思っています。



▶ 赤木地区の農道

まきし おさむ  
眞喜志 修 議員

## 救急医療情報キットの導入について

協議し、検討していきたいと思えます。

図 「救急医療情報キット」とは、個人情報と医療情報を記入した用紙等を一定の場所に保管し、災害時や緊急事態の救急活動に生かすもので、平成20年に東京都港区で初めて導入され、現在では全国の自治体に採用が広まっています。

日常生活の中で緊急時の対応に不安を抱えている方々の安全・安心の期待に応えることができると思いますが、本市でも、特に要援護者、一人暮らしの高齢者に「救急医療情報キット」を配布する考えがあるか伺います。

答 現在、本市では実施していないのが現状です。緊急時や災害時には大変役に立つものと思います。今後、高齢者あるいは障害を持った方、さらには一人暮らしの方など、どのような方を支給対象とするか調査・研究し、導入に向けて各種団体や医療機関等と

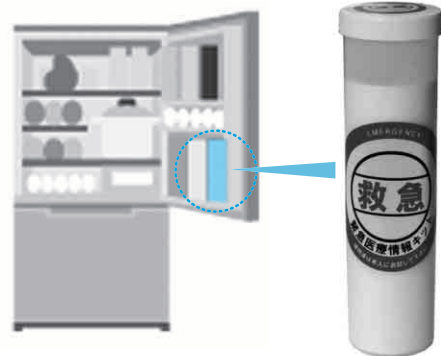
図 大災害時でもこのキットを持って避難すれば、ボランティアで訪れた医師でも被災者の医療情報が瞬時に把握できて、適切な治療ができます。本市でも是非導入していただきたいと考えます。

答 災害時においては、かかりつけ医からの情報が引き継がれていれば適切な医療、救助ができることは確かです。東日本大震災時には、お薬手帳の医療情報等により、一命をとり留めたということもありますので、それらの活用と合わせ調査・研究し、検討していきたいと思えます。

図 導入した場合ですが、どのように周知徹底されるのか伺います。

答 その場合、ホームページ、広報、個別通知などのほか、医療機関等にも「救急医療情報キット」について周知し、交付対象者にお知らせしていきたいと考えます。

◀ 救急医療情報キット



## 介護ボランティアポイント制度について

図 「介護支援ボランティアポイント制度」とは、元気な65歳以上の方が介護の手助けをしてポイントを稼ぐという

もので、この制度の導入により、元気な高齢者が地域貢献することで自らが要介護者となるのを予防し、それが介護保険料の軽減にもつながると考えるものです。

私たちは、歴史上かつてない高齢化社会を迎え、65歳以上の高齢者は年々増加してい

ます。元気な高齢者が介護を必要とする高齢者を支援することが求められる中、この制度の導入を提案するものです。導入・普及についての考えを伺います。

答 本市においても、地域包括センターでの介護予防事業や、一般の高齢者を対象にした生き生きヘルス体操、本年度からは市民健康体操も導入して医療費の抑制を図っています。また、支援事業としては、在宅福祉サービスセンターへの委託により介護活動のボランティアも実施しています。

「介護ボランティアポイント制度」については、高齢者の介護予防、あるいは社会参加のあり方の一つとして捉え、今後、検討していきたいと思えます。

図 15年後には世帯主が65歳以上の世帯が約1900万世帯、その7割が一人暮らしの高齢者ということです。安心して暮らせるまちづくりを目指し導入を強く求めるものです。この制度を導入するにあたってのデメリットを伺います。

答 ボランティアの登録者に対して、誰が、何時間、あるいはどの施設で作業したのかなどシステマ的な管理も必要になると思います。その費用を誰が負担するのか、さらには介護の仕方が正しく行われているかなどの確認作業等もあります。

また、導入に向けては、登録者が十分な研修を積んでいないと介護に参加できないということもあります。

※「救急医療情報キット」とは、専用容器の中に、氏名、血液型、生年月日、家族構成、緊急連絡先などの個人情報や、かかりつけ医、病歴、アレルギーなどの医療情報を記入した用紙と、健康保険証のコピー等を入れて保管するというもので、保管場所は冷蔵庫に定め、玄関内側のドアと冷蔵庫のドアへ保管を示すシールを表示し、これを全国統一のシステムとして救急活動等に生かそうとするものです。

たきもと よし  
滝本輝義 議員

## 中根保育所、岩井 第一幼稚園の統合 について

**問** 幼児教育における幼保一元化については、国で制度化されておらず、市が厚生労働省や文部科学省へ働きかけて実現させていくとしています。現在の国の方針について伺います。

また、坂東市独自で幼保一元化として進めていくのとですが、国の基準と違った場合、職員の身分や待遇、特に保育士や幼稚園教諭の責任や賃金、臨時職員の身分について伺います。

**答** 国の方針については、まだ確認は出来ていません。また、国の基準と違った場合の職員の身分については、

幼稚園教諭あるいは保育士の双方の免許を持っている方が大多数ですので、勤務することに関しては問題ないと思います。

新教育課程については、0歳児から2歳児は保育、3歳児から5歳児は幼児教育という考え方で進めています。

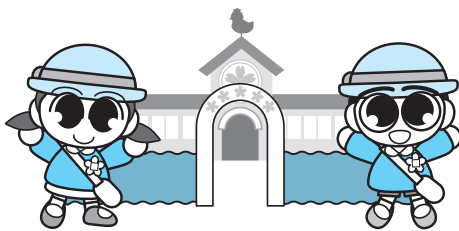
今回は、中根保育所と岩井第一幼稚園を対象に1つの施設として保育と幼児教育を行う予定で、施設は、安全・安心を第一に考えた園舎とし、園児同士が交流できる場や地域の方々とのふれあう場等の設置も予定しています。

**問** 料金については、一元化になった場合はどうなるのか伺います。

また、今後、岩井地域に3施設、猿島地域に1施設ということですが、民間施設への影響について伺います。

**答** 料金の問題は、文部科学省と厚生労働省の見解の相違があるので、それらを含めてすべて一本化しなければ事業は進まないというふうに国の方へも進言しており、今後の課題となっています。

いては、その立場は尊重していききたいと考えています。公立運営施設の充実を図ることにより、私立との共存共栄も図れると解しており、お互いの施設が充実することによって幼児教育が更に発展するだろうと考えます。



## 災害協定について

**問** 坂東市は、北茨城市及び河内町との災害協定を締結したと報道されました。これは、被害が広域化する大規模災害に対応するための重要な取り組みだと思えますが、これに至った経緯について伺います。

また、防災祈念式典が3月10日に開催され、各種企業や団体と、4分野で防災協定が結ばれました。この防災協定は、市内の災害が基本となると思いますが、茨城西南広域圏以外の隣接地域に対しての対応について伺います。

**答** 災害協定の経緯ですが、昨年の東日本大震災直後に坂東市が北茨城市に人的支援、あるいは物的支援を行ったのがきっかけで、市長が県北、県南に位置する北茨城市と河内町に呼びかけをしたものです。

茨城西南広域圏以外では、隣の野田市との消防相互応援協定や、国土交通省関東整備局と災害時の情報交換に関する協定を結んでいます。

**問** 議員の会派や委員会等で県外自治体へ防災関係の視察に行ったりしますが、同規模自治体で応援協定が結べそうなきは、ご配慮を頂きたいと思いますが、市長はどのようにお考えか伺います。

**答** 災害が広域的に起きた場合には、協定を結んでいなくても人道にすぐに対応していくと思います。また、今回の東北3県を見ても、全国各地から協定を結んでいなくても応援が来ています。災害協定に関しては、あえて遠いところと結ぶ必要はないのではないかと思います。



▶坂東市防災祈念式典



## 委員会審査報告

## 総務常任委員会

当委員会の審査案件は、今期定例会で付託されました、議案第16号平成23年度坂東市一般会計補正予算（第9号）及び継続審査となっております陳情第7号「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書提出に関する陳情の2件です。

去る3月6日、会議室(1)において市長、副市長、教育長、担当部課長の出席を得て審査を行いましたので、その経過と結果を報告いたします。

議案第16号平成23年度坂東市一般会計補正予算（第9号）について執行部の説明を聞いてから質疑に入り、地籍調査事業について、桜並木整備事業について、土地改良事業についてなどの質疑があり、慎重審査の結果、原案可決と決しました。

次に、陳情第7号について執行部の説明を聞いてから審査に入り、何が非常事態なのか明らかにっていない状況では必要ないという意見があり、慎重審査の結果、不採択と決しました。

平成24年第1回定例会に提出され、常任委員会に付託された議案及び陳情について審査した結果をお知らせします。

## 産業建設常任委員会

当委員会の審査案件は、今期定例会で付託されました議案第9号 市道路線の認定について、議案第10号 市道路線の認定について、議案第11号 市道路線の廃止について、議案第12号 市道路線の廃止について、議案第13号 市道路線の変更についての5件です。

去る3月6日、会議室(1)において、市長、副市長、担当部課長の出席を得て審査を行いましたので、その経過と結果を報告いたします。

はじめに、執行部の説明を聞いてから現地調査を行った結果、議案第9号から議案第13号までの5件については、いずれも妥当であると認め、原案可決と決しました。

## 陳情審査結果

番 号	件 名	審査結果
陳情第7号	「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書提出に関する陳情	不 採 択

## 【請願・陳情の提出について】

どなたでも、市政についての要望などを、「請願書」・「陳情書」として市議会に提出することが出来ます。請願は、一人以上の議員の紹介（署名又は記名及び押印）が必要ですが、陳情は議員の紹介は必要ありません。

「請願書」・「陳情書」には、趣旨、提出年月日、請願・陳情者の住所、氏名（団体及び法人の場合は名称・代表者の氏名）を記載のうえ押印し、議長あてに提出してください。

議長は、要件を満たしていると認めるものについては、所管常任委員会などに付託し、委員会で審査します。採択された請願・陳情については、必要に応じてその結果を市長や国の機関などに送ることになります。

## 第3回さくらまつりに参加 ＜収益金を寄付＞

4月7日(土)・8日(日)、八坂公園と逆井城跡公園の2会場でさくらまつりが開催されました。当市議会では、少しでも多くの方に楽しんでいただくため、それぞれの会場に「ヨーヨー釣り」を出店しました。その収益金の一部は、義援金として市へ寄付させていただきました。



## 議会を傍聴しませんか！

議会に対するご意見をお待ちしています。

市政を知るよい機会です。

次回定例会は6月に予定しています。あなたも議会傍聴をしてみませんか。議会の日程等については、市ホームページ等でお知らせします。ホームページには、議員の紹介や請願・陳情の提出の方法、傍聴についてのお知らせ等も掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。(http://www.city.bando.lg.jp)

また、「議会だより」や議会に対するご意見等の投稿をお待ちしています。

※詳しいことは、市議会事務局まで。

TEL 0297-35-2121(代)

TEL 0280-88-0111(代)(内線2303)



議会だより編集特別委員会

委員 羽富 晶弘

議会だよりでは、市議会の活動を公正かつ正確にお伝えするとともに、市民に親しまれ読んでいただける紙面づくりに努めてまいります。ご意見、ご感想をお待ちしております。

先日、議員は勉強不足だ、議会とは追認機関なのか、なれ合いや根回しでことが足りてしまえば、双方とも楽だから、なかなか変えることができないのではなど、厳しいご意見をいただきました。皆さんの声を真摯に受け止め、能力の向上と議会の活性化に努めてまいります。

議会は、議決機関であるだけでなく執行部の監視、評価、条例制定などの役割があります。私は、市民の立場を第一に信条として政策提言を心がけております。

編集後記